



# AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.153

## 社会資源としてのAA

あの東日本大震災から1年が過ぎました。

### 東北地域広報委員会

今でもあの時の恐怖を忘れることができません。ある仲間は、あまりの揺れに死を覚悟し、最後の祈りを捧げたそうです。また地震だけでなく、その後の津波の被害が甚大(じんだい)でした。筆者も含め多くの仲間が家族や知り合いを、この震災で失ったと聞きました。この場を借りて改めて、心からお見舞い申し上げます。

そのような中でも東北地域は、多くの仲間からの励ましの言葉などをいただきながら、たくましくAAとしての活動を続けることができました。1年が過ぎた現時点では、海岸線近くで活動していたグループやミーティング場以外は、ほぼ震災前の状態に戻っています。

さて、東北地域広報委員会としての活動ですが、大震災から半年が過ぎ、若干の落ち着きを取り戻した頃になると、被災地の仮設住宅などで飲酒によるトラブルが起きていることをニュースなどで知るようになってきました。そのようなことを聞かされたとき、かつての自分たちの経験を思い出し、そんな私たちがからこそ何かできないことだろうかと考え、集会などを通じて地域内に多くの意見を求めました。

その中で出た仲間の声を挙げてみます。「広報とメッセージ活動は異なる活動なので、それぞれを混同せずに区分した活動を実施するべきではないだろうか」「過去に同じような経験を持つ他地域の活動を聞き、参考にしたらどうか」「マンパワー的にも予算的にも未成熟な東北地域としては、あれもこれもという活動には無理が生じる。他地域や常任理事会・評議会に補助をお願いしたらどうか」などなど、多くの意見が出されました。この論議については、これからもある程度の時間をかけて論じていくことになるだろうと思います。

論じているばかりではなく、行動についても模索している日々の中で、ある病院スタッフにご挨拶する機会をいただきました。その時にチャンスとばかりに広報活動についてのご理解とご協力をお願いしたところ、こちらがビックリする程、快く承諾してくださいました。

しかしその時に、そのスタッフの方から「AAは、ご自身の会合以外で活動することはAAの伝統に反するので、できないことだと思っていました」という言葉をいただき、愕然(がくぜん)としたことを記憶しています。この体験は、今後の広報活動で活かしていければと思います。

ともかく、仲介をいただきながら少しずつ動き出しました。現在の活動としては、

- ・仙台市内の仮設住宅をサポートしている団体への広報活動
- ・仮設住宅へのポスター貼り(2ヶ所)
- ・ミーティングリスト配布(3ヶ所)

です。活動というには本当に恥ずかしいかぎりの内容です。

今後はこの活動を継続拡大することは勿論のこと、

- ・保健所及び関係施設への広報媒体小冊子などの郵送、配布
  - ・新たな精神医療関係法人へのコンタクト活動
- も視野に入れて活動していきたいと考えています。

その中でも保健所などとの関係づくりについては、できるだけ実り多い活動にする為に、現地施設だけではなく、それぞれの上位機関との関係づくりにも尽力(じんりよく)していきたいと考えています。

もうひとつの可能性として「仮設住宅などでのメッセージ活動」が挙げられます。しかし、ある関係者から「問題飲酒者が自分の問題を自覚して直接医療機関に通うのであれば専門的治療を勧めることも可能だが、訪問治療の最中に、自覚のない問題飲酒者と面会する際は「アルコール依存症」のことに触れると更なる飲酒動機を与えることになるので大変気をを使う」ということを聞きました。

これらのことを考えると、やはりAAが現地で活動を続けるにあたっては現地の問題飲酒者とAA間にはAA以外からのサポートが必要不可欠であると思われる。

以上、東北地域広報委員会としての現状報告とこれからの活動について述べさせていただきました。

今回のことで改めてAA以外の諸機関との関係構築の重要性について認識し、「社会資源としてのAA」を自覚しました。今後も多くの仲間や関係者との連携を密にして、この東北地域での広報活動に従事していきたいと思えます。この経験を新しく携わってくれる仲間にも手渡していければと思います。ありがとうございました。

## 第17回AA日本全国評議会を終えて

### 関東甲信越地域 前期評議員 国谷

本年2月10日(金)、11日(土)、12日(日)の3日間、第17回評議会が川崎グランドホテルにて開催されました。テーマは『私の責任』でした。私は前期評議員として初めて参加させていただきました。

評議会の約1ヶ月前、1月中旬に東京都にある代々木のオリンピック記念青少年センターにて評議会を迎えるにあたっての事前勉強会が1泊2日で行われました。はるばる九州から自費で参加されている仲間もいたりして、評議員をやるとうする仲間のモチベーションの高さに感心しました。常任理事をされている仲間も何人か参加されていて、普段は議事録などで名前だけしか見えていない仲間と実際に生でお会いすることができ、こういう方々が常任理事なのかと感心したりしている自分がありました。

評議会の本番前に勉強会なんて面倒臭いなあと思っていた自分でしたが、確かに評議会当日にいきなり、議題を出されてもそれを的確に判断できるかと言えば、それはさすがに無理で、やはり事前に勉強会つまり予習をしておけば、ある程度理解を深めたうえで本



## 2.課題点

### 1)いまの方式の評議会に分科会が必要だろうか

分科会で話し合われたことが全体会で再び話し合われます。また分科会の配属はその評議員のキャリアなどが活かされるようになっていくわけではないので、自分のあまり関わってこなかったサービス分野の分科会に配属されることもあります。今次評議会では時間が足りずに2つの議案が審議未了となっていました。十分な審議の時間を確保するためには、分科会を省いた一括全体会審議でもよいのではないかと思いました。もし分科会方式で行なうのであれば、その分野のサービスについての見識を持つ仲間や関係者を参考人として招致(しょうち)するなどした審議であれば意味があると思います。ただしこの様な方式では、評議会は3日間では無理かと思います。

### 2)修正審議ができていく

基本的に議案に対して、賛否となりますので、なかなか修正の上でその議案の意図を生かしていくという議論ができていくということです。評議会では、「動議」という言葉が続きますが、一般の会議では動議は議事の進行について出されるもので、議案に対する賛否の表明以外のものは「修正案」の提出となると思います。そのあたりの、議事の進め方のルールについても工夫の余地があるかとも思いました。

まだまだ感じたことがあったのですが、スペースが尽きてしまいました。最後に再び、ここに書きましたことは私の個人的な私見であり、評議会全体の意志ではありません。ではまた！

<sup>1)</sup>わが国の成人飲酒行動およびアルコール症に関する全国調査。

アルコール研究と薬物依存 40: 455-470, 2005.

+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-+:-

### 関西地域 前期評議員 田中

私が初めて、評議会にオブザーバーとして参加させてもらったのは2004年のことでした。その年に関西で全国サービスフォーラムを開催することになり、実行委員長として広報にお邪魔したのです。そして今回、2012年度の第17回AA日本評議会に評議員として参加することになりました。今回のテーマは「私の責任」です。関西は残念ながら2005年以降、評議員選出がうまくいかず、1名であったり代理の方に参加していただいたりという状況が続きました。

私は2008年から去年まで関西セントラルオフィス運営委員長をさせてもらいました。そこでローカルサービスの重要性和継続を学びました。そして今回、その経験と思いを持って評議員に立候補させてもらったのです。

当日川崎駅に降り立つと、新しいビルが立ち並び時間の経過を感じました。今回の評議会に臨むにあたっては関西のゼネラルサービスの経験が豊富な仲間からお話を聞いたり、他の仲間からもアドバイスをもらったり過去の報告書を読み返したりと自分なりにつかんでいた概要をもとに初日から発言させていただくこともできました。

分科会での私の担当は出版と財務ということで、財務については関西で経験したオフィス運営委員は本当に役立ちました。財務担当理事のご苦勞が実感できました。

出版については議題ではありませんが、関西地域の機関紙である「ぶどう樹」に掲載している「グレープバイン」翻訳の著作権について分かち合うことができ、それを関西ぶどう樹編集員会に伝えられたことは収穫でした。2日目の終了後、数名の仲間と少し外出をし、各

地域の現状やグループでの広報の行ない方などを聞かせてもらい有意義な時間を過ごさせてもらいました。

今回、第17回AA日本全国評議会に参加させていただき、私自身一番感じたことは仲間との繋がりで、AAに繋がって半年が過ぎたころスポンサーの勧めで、スポンサーと一緒に関西のラウンドアップの実行委員として参加することになりました。私はラウンドアップに参加したこともありませんでしたので、実行委員の仲間が2001年春の河口湖で開催された関東甲信越地域ラウンドアップに連れて行ってくれたのです。そこでは多くの仲間が回復のプログラムを信じて分かち合っていました。そして私は初めてそれを実感できたのです。それから私は仲間と出会う為にいろんな会場に出掛けました。

そして10年近い時間が経ち、この場所で再会することが出来ました。ついこの間お会いした方や数年ぶりにお会いする方、本当に10年ぶりの仲間。多くの仲間と再会です。

評議会開催中は少し不思議な感覚でした。当たり前かも知れませんが、どんどんリラックスしていくのです。この空間そのものに安心感があるのです。AAに繋がってすぐの頃、プログラムを進めていきたい、サービスのことをもっと知りたいと思っていた頃に出会った仲間が沢山周りにいるのですから、何でも話ができるわけです。関西地域で感じる緊張感と責任感とは違う感覚でした。決して緊張が無いわけではないのですが守られている感じがあるのです。

今回初めて出会う仲間が同時期にAAに繋がり自分の回復を信じてプログラムを進め、ソプラエティを重ね、そして新しい仲間の回復の為、ゼネラルサービスに関わる真剣な姿は尊いものでした。この評議会中に感じた感覚は今まで感じたことのないスピリチュアルなものでした。

私の責任はいま苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことです。そして関西の仲間と評議会で分かち合える全国の仲間の経験や新しい仲間に対する思いを伝え、継続して評議会に参加してもらうことを伝えることが今回この場に立たせてもらった仲間に対する私の責任だと感じています。来年度、新しい会場でも、お会い出来ることを楽しみにしています。第17回AA全国評議会参加させていただき本当にありがとうございました。

+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-:+:-+:-+:-

### 評議会事務局 新井

関係者の皆さま、たいへんにお疲れさまでした。事前の準備、当日の運営、いろいろと不足があったように思います。それでも、一部の方からは「去年よりもマシになった」とお褒め？の言葉をいただきました。どうか長い目で見てくださいますよう、今後ともよろしく願い申し上げます。

私事ですが、私自身、評議会事務局として働くことはもちろん、評議会に参加することさえ初めての経験でした。全く何も分からないまま準備を進めて参りました。皆さまからの確かなアドバイスをいただき、無事に今回の任務をほぼ終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私事が続きます。AAにつながりたての頃、私の評議員への印象は「雲の上の存在」「とても回復している仲間」でした。少し経つと、「難しいことを言う仲間」に変わりました。その頃は難しいことを言われるとカチン！カチン！とすぐに反応して、ひとつひとつに議論を吹っ掛け憂さ晴らしをしていました。

時に陰悪なムードにしてしまうことがあってもおかまいなく、自分だけはスッキリした気持ちになっていました。しかし、ほんの少しだけ、評議員って大変そうだなと思っていました。

AAサービス・マニュアルの第6章『評議員』は、「評議員の仕事は過酷です。」で始まり、数多くの職務が列記されています。詳細は省きますが、やはり思っていた以上に大変そうです。

インターネットで検索して一般的な用語としての理解を試みると、『評議員(会)は、役員(理事及び監事)の選任並びに重要な業務運営について意見を述べる等、役員(理事及び監事)の諮問に応じ、独善的運営をチェックするなど、法人の業務を公正に行うための重要な機関』(公益法人関連用語集より)と、ありました。

さて、この程度の知識と全くない経験で臨んだ評議会ですが、今回は「動議」が乱立した評議会ということでした。また、一時的ではありましたが、赤字予算の承認が求められた評議会でもありました。(財務担当理事は、後日、反省しきりでした。)

罵声こそ飛ばせませんが、出口の見えない熱い議論が交わされました。そんな中であって私は、緊張しながらも徐々に安心し、流れに身を任せるようになっていきました。

初日、評議員に会議の流れなどを説明するオリエンテーションがありました。私は自己紹介しただけですが、とても緊張しました。評議員が19名も！何か難しいことを言われる！怖い！と。どうやら、つながりたての頃の反抗的な態度はこれが原因だったようです。

しかし、会議が進んでいくうちに怖さが信頼に変わり、だんだんと「ここに集まっている評議員に判断していただく。この人たちに任せよう。」という気持ちになりました。

おそらく、今回は審議できなかった結果も、後々になって間違っていたことになるかもしれない結果も、必ず解決していきたくて信じることができました。そしてこれがAAにとって、とても大事なことだと実感できました。

さて、今回の業務も残すところは報告書の作成のみとなりました。現在、評議会事務局メンバーが日々まとめ作業を行っており、5月末には各グループへ発送する予定です。手前味噌になりますが、報告書がこんなに苦勞をして出来上がっていくものとは思いませんでした。それを、「読みにくい！」の一言で粗雑に扱っていたことを反省しています。今回、この反省を踏まえ、作る側になったことに感謝しつつ、もう少し読みやすい報告書ができるよう努力してまいります。

なお、審議・決議一覧表は、3月末に各グループへ発送いたしましたので、どうぞ一読ください。地域によっては、評議員による報告会が開かれるとも聞いております。(評議員の皆さん、本当にお疲れさまです！)

最後になりますが、ニューズレターへの投稿は今回で2回目です。1回目の投稿では、『まだAAにつながりたての頃、先行く仲間と言われた言葉が印象的です。「AAで学んだことを社会に。社会で学んだことをAAに。」今度は、社会で学んだことをAAにお返しする番です。』と、書きました。言うのは簡単でした。行なうのはとても難しく、日々勉強の毎日です。

+++++

## 2012年第22回 WSM(ワールド・サービス・ミーティング)

メインテーマ: 「輪番制」 - AAの鼓動 - 分かち合いのお願い

+++++

### 国際協力委員会 WSM 評議員新村

今年のAA・WSMはニューヨーク市で10月21日から25日の5日間にわたって開催されます。各国の代表であるWSM評議員の参加の登録もほぼ終わり、いよいよ7つのテーマに基づいたプレゼンテーションと3つのワークショップのテーマのスピーチの割当の準備が、WSM事務局で具体的に始まろうとしています。

2010年の第21回 WSM(メキシコ)に参加した時に、日本での経験と力と希望の分かち合いを、日本の代表として参加各国のWSM評議員たちと分かち合うことの必要性を強く感じて帰国しました。今回は是非、日本全国の仲間やグループに、間接的ではありますが、この紙面を通して一緒に WSM に参加していただきたいと考えています。

ついでに、今回のニューズレターから3回にわたって、「輪番制」「AAにおける若者」「インターネットと新技術」についてそれぞれ原稿を募集しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

#### 第1回目として、「輪番制」

- 今まで役割りを任された仲間の経験を生かすには
- 輪番制の重要性

について各グループや種々委員会などで経験を話し合っていたりなどして、メールアドレス

[aajapanwsm@gmail.com](mailto:aajapanwsm@gmail.com)

へ原稿を送信ねがえれば幸いです。原稿は早いほうが良いのですが、出来れば6月中旬ごろまでをお願いします。

ご参考:

- ・特に日本のグループではホームグループのメンバー数が少ないところが多いので、輪番制が成り立たない場合、どう解決しているか?など。
- ・ホームグループの活動こそが、AA共同体の鼓動ともいわれていますが、ニューカマーの歓迎や受け入れの仕方、スポンサーシップ、メッセージ活動などなど。
- ・困っていること、うまくいっていること。その他問題になっていることも。
- ・冊子『AA グループ』には、ホームグループの大切さ、輪番制の原理など参考になる事柄が載っています。

+++++

### 国際協力献金のおお願い

次号のニューズレター154号で改めてお願いをいたしますが、各グループには4月末に定期情報と合わせて国際協力献金のおお願いと払込取扱票をお送りしております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

編集・発行: NPO 法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.AJapan.org> [jso-1@fol.hi-ho.ne.jp](mailto:jso-1@fol.hi-ho.ne.jp)

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休